「新しい東北」官民連携推進協議会

平成30年度　福島県意見交換会（第１回）　議事要旨

平成30年７月９日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日　時】平成30年５月30日（水）14:30～16:30
【場　所】復興庁福島復興局
【出席者】
＜会員＞（順不同）
株式会社東邦銀行、福島県、国立大学法人福島大学、一般社団法人ふくしま連携復興支援センター、復興庁総合政策班、復興庁福島復興局
＜オブザーバー＞
公益財団法人福島観光物産交流協会　観光物産館
＜ファシリテーター＞
エイチタス株式会社
＜事務局＞
NECソリューションイノベータ株式会社

【議事概要】
１．各団体の取組紹介
各団体から活動紹介を行った。

２．平成29年度活動記録・実績
以下について、ファシリテーターより説明を行った。
・平成29年度は、計５回の意見交換会を実施した。
・福島県産品・伝統工　芸品のPRとして、日本酒と酒器の飲み比べセットの販売及びFw:東北Weeklyを活用したアイデアソンを行った。

３．平成30年度活動の方向性
以下について、ファシリテーターより説明を行った。
・意見交換会の目的を、復興庁事業の各メンバーへの紹介、メンバー間での情報共有を行うことで、情報共有・課題解決の窓口としての取組と位置づける。
・メンバーによる「新しい東北」官民連携推進協議会の週次の交流の場（Fw:東北Weekly）への関与等を行い、具体の課題解決の実践を通した課題解決に向けた連携の事例を創出する。

４．平成 30 年度のテーマ案

（１）福島県産品・伝統工芸品等の PR に関する論点の整理ついて

〇PR の対象と意義について

・継続が難しいとされる産業分野でも、注目の浴び方次第で、復活が見込めるのではないか。

・PR することで何を解決するのかというのが重要。また、様々な活動で少ない資源が分散するのも課題。担い手へのフォーカスも、一般に受け入れられる人選も必要だろう。

〇ブランド化とストーリーづくり

・生産者などにフォーカスすることで、福島に来なければできない体験をストーリーとして売り込むことができる。できる企業がどんどん進んでいくことが重要。

・ストーリー化によってブランドを生むことが必要。

〇酒器と工芸品のセット販売について

・昨年度の酒器と伝統工芸品のセットは試作品の質が高く、色々な使い道があると感じた。

・地域おこし協力隊が関われるような取り組みも検討できるのではないか。

〇意見交換会での取り組み方

・この意見交換会が、アイデアの実験場であるという位置づけであれば、限られた期間での活動として、参画する組織としても連携、調整が取りやすいのではないか。

・トライ＆エラーで行っていく場、自組織だけではできないことの実験場としてはどうか。

（２）担い手に関する論点の整理について

〇内外の状況への認識

・今より人口が少なかった時期でも、賑わっていたのではないかと感じている。地域に残った人の意識を変えねばならないし、地域の魅力をわかりやく示すことも必要。

・進学、就職で外に出ていく若者をつなぎとめるとしても、郷土愛という観点に頼るしかない状況になっているのではないか。

・どこで暮らすのか、どのように働くのかという発想の転換の時期にもなっていると感じている。

〇担い手定着と収入確保

・継続が困難な分野でも、暮らしていける商売として成り立たせる必要がある。儲ける中で PR もできるような仕組みは必要ではないか。

・県内の就職で東京並みの給料をもらうのは難しい。郷土愛という観点に頼るのでは難しい。自分たちでチャレンジして稼げる人を増やしていく文化をつくるのも一案ではないか。

〇移住者への雇用ニーズ

・有能な移住者が活躍の機会を適切に得られているのか。企業側の雇用ニーズはどうか。

・事業承継や就職マッチングを行う施設や、商工会議所が移住支援をするケースもある。

〇事業の成功事例を示す必要性

・事業承継の例では、子の代で親を超えようと事業を起こすところもある。若い女性が行っているケースもある。担い手不足の議論では、こうした事例との違いを考える必要がある。

・親の資産があったからできたという話のみにはせず、ゼロから始めた事例も見せられればい

い。

（３）平成 30 年度活動案について

〇テーマ

・県内事業者を対象に、稼げる事例を生み出している人材像について調査・検討を行う

〇主な検討事項

・対象者の人選（どんな人材を、どんな分野から取り上げていくのか）

・調査項目及びアウトプットの設定

・復興庁他事業で行う交流の場（Fw:東北 Weekly）の活用案

５．次回開催について

・日時：８月下旬～９月上旬ごろを予定

・場所：復興庁福島復興局

・議題案：今年度活動テーマの詳細について

以上